

## JASIS 2019 見聞録

幕張メッセ(千葉県千葉市美浜区)において分析機器・科学機器の展示会 JASIS 2019 が 9 月 4 日(水)から 6 日(金)の日程(JASIS カンファレンスは 9 月 3 日から 6 日)で行われました。JASIS (=Japan Analytical & Scientific Instruments Show) の名称は、2012 年の第 50 回分析展(日本分析機器工業会)と第 35 回科学機器展(日本科学機器協会)を機とした合同展の統一名称として、公募を経て決められました。開催規模は、展示面積 34141 m<sup>2</sup>、出展社数は 478 社(機関)、小間数は 1423 小間となり、アジア最大級の分析機器・科学機器展示会へと成長しました(図 1)。今年は関西でも初めて JASIS 関西 2019 が、2019 年 2 月 5 日(火)~7 日(木)にグランキューブ大阪(大阪府立国際会議場)にて開催されました。今年の JASIS2019 では合計 23,409 人の入場者があり、うち海外からは 519 名の来場がありました。

今回の JASIS 取材のため 5 日(木)にお伺いしました。9 時半過ぎの時点で、会場入口付近(図 2)には多くの来場者が 10 時からの開場を待っており、限られた時間で多くの情報を持って帰ろうという来場者の意気込みが感じられました。また、受付方法は年々簡素化され



図 1 JASIS 2019 展示会場の様子



図 2 幕張メッセ国際展示場入口付近の様子

ており、事前登録者の場合、自分のオフィスでカラー印刷した入場証を配布されたホルダーに入れるだけでした。10 時の開場時刻後、すぐに事務局本部を訪ね、JASIS 委員会委員長の長谷川武義様、技術委員会委員長の杉沢寿志様、事務局長の若尾 豪様から JASIS 2019 の概要や特徴を伺いました。その後、約 1 時間をかけて、委員長の長谷川様に会場を案内していただきましたが、展示会会場におけるブース配置のお考えなどを興味深くお聞きしました。

JASIS のキャッチフレーズ「未来発見。(Discover the Future)」は 2012 年の第 1 回 JASIS から変えられていません。JASIS が日本ならではの高度で繊細な技術や物づくりの発想があふれる場であること、この分野のアジア最大級の展示会としてイノベーションを生み出し、将来のビジネスの発展につながる発見がある場であること、という想いが込められています。会場内に貼られていた JASIS の中国語版、韓国語版のポスターにも、それぞれ同じ意味のキャッチフレーズ「未来的发现」「미래 발견」が書かれていましたが、JASIS は分析機器展時代から長年にわたり、展示会の国際化に地道に取り組まれています。会場の至る所で外国人来訪者が参加可能なブース、カンファレンス会場、イベントを目にすることができ、また、海外の情報を得ることができます。

「未来を創る、分析・科学機器のいまを知る」というテーマのもと、当展示会では二つの大きな特別企画が催されました。その一つ「ライフサイエンスイノベーションゾーン」(図 3)は、分析機器と最先端バイオ創薬の融合領域を知るために設けられ、人工知能(AI)による創薬に関する講演などが行われていました。今年はこのゾーンでは大学・研究機関を含めて 63 社が出展していました。会場では、多くの参加者が熱心に討論会を聞き入り、また、講演中にリアルタイムに聴講者が質問やコメントを、スマートフォンを使って投稿できるコメントライブシステムを利用し、活発な議論が行われていました。

もう一つの特別企画「オープンソリューションフォーラム」(図 4)は、関心が高い共通の課題をテーマとして設定し、著名な演者の講演と出展社による発表を行う企画で、3 年前より開催されていますが、本年も 200 名



図 3 「ライフサイエンスイノベーションゾーン」会場の様子

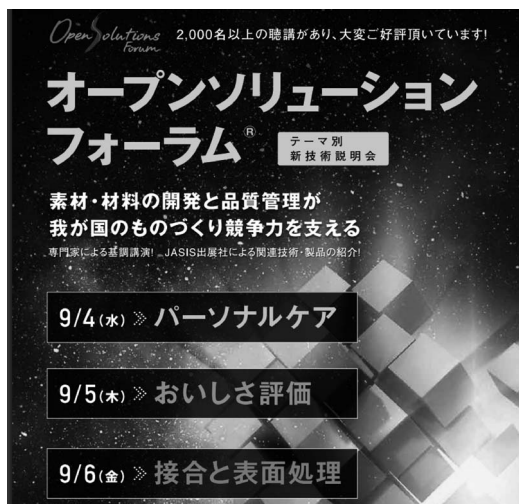


図4 「オープンソリューションフォーラム」ポスターの一部抜粋

の会場規模で開催されました。今年はテーマを「パーソナルケア」「おいしさ評価」「接合と表面処理」と具体的なものに設定されました。「おいしさの謎をとく～生み出す技術、評価する技術～」基調講演などが満席の状態で行われているのを目にし、非常に来場者の関心が高い企画であることが伺えました。

国際展示場に隣接するアパホテル&リゾート東京ベイ幕張、ホテルニューオータニ幕張内の会場では329テーマにも及ぶ新技術説明会が行われ、JASIS展の目玉として定着しています。出展企業各社が、自社の製品及び分析法などの技術動向、実際の分析にあたっての参考情報などを説明します。発表は各社における分野及び機器の専門家が直接説明を行っている上、目的の会社の情報を的確に得ることができるとも魅力となっています。新製品、新技術に加え、その分野の基礎的な解説を行うテーマも数多く開催されました。この会場には多くの聴講者が詰めかけ、各回入れ替え制であることから前の講座の終了とともに、次の講座に参加するために並びなおす姿も見られました。これを目当てにJASISに来場される方も多く、来場者も満足そうに会場を後にしておられました。

国際会議場では関連各学会、団体や本展示会主催者主催の51のセッションが例年どおりJASISコンファレンスとして行われていました。「インターナショナルシンポジウム・フォーラム」では、学術的国際学会であるICS英国王立化学会(RSC)東京コンファレンス2019「電気化学分析の最新情報—その多分野への展開と可能性—」、JAIMA主催の中国フォーラム2019「中国分析市場動向、環境、健康、食の安全」およびアジアテクニカルフォーラム「アジアの食品安全と保安、インドの分析機器市場」です。「JAIMA/日科協セミナー」では、これから新しい分析機器の利用にチャレンジするユーザーにとって大変参考になるセミナーが数多く開催されていました。

「日本薬局方セミナー」も人気講演会として定着しており、法令改正、たんぱく質試験法、定量NMR法などに関する講演が行われました。定員500人の会場で行うことから関心の高さが伺えました。同じ大会場では日を変えて一般向けのJASIS2019サイエンスセミナーが「『チバニアン』—地層が示す地球磁場の逆転!」というテーマで開催され、地学に興味を持っている参加者の知的好奇心が満たされたことと思います。

目玉の一つであるJASIS WebExpo®についてお話伺いました(図5)。WebExpoとは、従来の会期、会場



図5 JASIS WebExpo® のログイン後の画面



図6 「サイエンスカフェ」会場の様子

に縛られず、約5ヶ月間、どこからでも参加、出展できることをコンセプトにWeb空間に創られたセミナー及び展示会場です。実際に来場できなかった方や講演を聞き逃した方の要望に応えるため、WebExpoの実現に至ったとのことでした。ライフサイエンスイノベーションゾーンとオープンソリューションフォーラムの基調講演の動画が公開され、Web上で実機や新技術を体感することが可能になりました。JASIS WebExpo® 2019は、7月3日より12月20日までWeb上で開催されます。今年の8月末でのアクセス状況を見ると昨年比3倍以上、延べ閲覧コンテンツ数も6173(昨年同時期3314)、サイトでの平均滞在時間も約70分(昨年41分)と大変好評を得ています。また、企業出展ブース数も19社に増加しました。

今年初めての企画としては、4日に「理研よこはまサイエンスカフェ」が展示場イベントスクエア内で実施されました(図6)。講師による最先端情報を気軽に聞きながら参加者から質問を受けるという対話型イベントです。常に新しい企画に挑戦し、試みていく姿勢がJASISの活気が長年に渡って保たれている秘訣なのではないかと感じました。

なお、紙面の都合上ここで紹介しきれなかった様々な企画、セミナー、展示も数多く実施されており、分析のみならず科学技術全般の関係者にとって充実したイベントとなっていたことを付記させていただきます。来年のJASISは、幕張メッセが東京オリンピック・パラリンピックの会場の一つとなっている都合上、2020年11月11日(水)~13日(金)に幕張メッセで開催されます。秋の涼しく過ごしやすい季節に開催されるJASIS展をお楽しみいただけるのではないかと思います。最後に、取材にあたって貴重な時間を割いていただいたJASIS委員会及び事務局の皆様、運営に携わられた皆様、この場を借りてお礼申し上げます。

〔国立研究開発法人産業技術総合研究所 松本信洋 津越敬寿〕